

質問権行使の基準素案

世界平和統一家庭連合(旧統一教会)の調査に向け、文部科学省が宗教法人法に基づく「質問権」行使の基準素案をまとめたことが7日、関係者への取材で分かった。法令違反や法的責任を認める公的機関の判断といった客観的な根拠があり、さらに法令違反が相当数繰り返されていることなどを要件とした。年内の調査開始を目指し、文化庁の専門家会議を8日に開いて素案を議論する。

「質問権」行使の基準素案のポイント

解散命令に該当すると疑われる場合

- ▶ 公的機関において、法令違反や法的責任を認められた判断がある
- ▶ 公的機関に対し、法令違反の情報が寄せられ、それらに具体的な資料や根拠がある

「著しく公共の福祉を書する」疑いの要件

- ▶ 法令違反が相当数繰り返されている
- ▶ 法令違反による被害が重大

宗教法人法は「法令に違反して、著しく公共の福祉を書すると明らかに認められる行為をした」場合に裁判所が解散を命令できると規定。質問権はその「疑い」があれば行使可能で、1995年の法改正で盛り込まれた。これまで一度も行使されたことがなく、文科省は「宗教の自由」や「政教分離」に抵触しないための基準の策定を急いでいる。素案によると、こうした「疑い」があるかどうかは客観的な根拠に基づいて判



黄金色に輝く稲穂を収穫していくコンバイン=3日午前、熊本県玉名市 (ドローンで撮影)

ニュースサイト西日本新聞me!に動画

米粉収穫期 膨らむ期待

熊本・玉名

小麦粉の価格高騰で注目を集める米粉の原料米「ミ

ズホチカラ」の収穫が、熊本県玉名市で進んでいる。ドローンで上空から撮影すると、たわわに実った稲穂をコンバインが刈り取っていく姿は、黄金色の海を進む船のよう。

「ミズホチカラ」は2009年、熊本県で開発された。砕けやすいため、米粉に加えると、たわわに実った稲穂をコンバインが刈り取って福岡、宮崎両県などで生産されている。

産地の玉名市の「JAたまな」によると、今年は昨年比約2割増の約430トを収穫予定。乾燥後に製粉され、12月から米粉として出荷されるという。(金田達依)

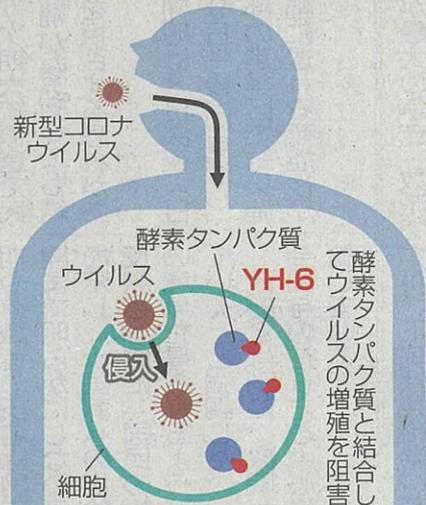
新型コロナウイルス感染症の治療を巡り、どんな変異株にも効果を見込める新たな経口薬の候補を九州大大学院の研究グループが開発した。ウイルスの増殖を助ける酵素タンパク質の機能を阻害する働きがあり、既存のコロナ経口治療薬を使えない患者にも投与できる可能性がある。製薬会社と連携し、重症化を防ぐ抗ウイルス薬として薬事承認を目指す。(平峰麻由)

九大大学院の研究グループ開発

グループは、九大大学院薬学研究院の王子田彰夫教授ら。新薬候補は、標的物質に「鍵と鍵穴」のように結合してその機能を阻害する「コバレントドラッグ」と呼ばれるタイプだ。コロナウイルスはヒトの細胞に侵入すると、細胞内の酵素タンパク質を活用するなどして増殖するが、開発した「YH-6」は、酵素タンパク質と強力に結びつくことでコロナウイルスが利用するのを妨げる。

ウイルスは、変異すると細胞に侵入する形が変わるものの、増殖の仕組みは同じ。このため、YH-6はどの株にも効果を期待できる。実験では、その時点までに見つかったコロナウイルスの全変異株で増殖を抑制したという。コバレントドラッグは、ペニシリンなどがよく知られている。グループはもとより、抗がん剤に応用しようとする研究を進めていた。標的以外の物質にも結合しやすく、副反応が大きくないという課題があるが、YH-6には酵素タン

新薬候補「YH-6」が新型コロナウイルスの増殖を抑える仕組み



パク質に的確に結び付き、一定期間後に結合を外れる性質を持たせた。国内では現在、新型コロナウイルスの経口治療薬として①米メルク社の「モルヌピラビル」と②米ファイザー社の「パキロビッドパック」が承認済み。ただ、①は胎児に異常が生じる「催奇形性」が確認され、②も高血圧や不整脈の薬など

既に特許実用化急ぐ

YH-6の開発は10月、米国の専門誌に掲載された。既に特許を取得しており、今後実用化に向けて製薬会社に権利を売却する。各大学とも、創業の基礎段階を担う「アカデミア創業」に力を入れており、九大では初の事例となる。

全株対応 コロナ治療薬に光

誰でも飲める可能性に期待

近藤裕郷・医薬基盤研究所長の話 催奇形性や他の薬との併用制限がなく、誰でも飲める可能性がある点を大きく評価したい。大学で薬の開発を担う「アカデミア創業」の重要性は以前から言われてきたが、今すぐ新薬が求められるパンデミック(世界的大流行)の時こそ、その真価が問われている。九州大が短期間に成果を出したことは意義深い。これから国や企業とうまく連携し、製品化を進めてほしい。

今後の動きを注視したい

迎寛・長崎大教授(呼吸器内科)の話 承認済みの2種類の経口薬は、重症化リスクがある患者が対象になっている。ワクチン接種が進んで軽症者が増えたが、抗ウイルス薬はなく、重症化リスクのない患者の場合、解熱剤などで症状を抑えるしかない。軽症者にも有効性があり、処方しやすい新薬が求められていた。YH-6にこれまでの薬を超える作用があるのか、発表だけではまだ評価できない部分がある。今後の動きを注視したい。